

谷地中部研究だより

河北町立谷地中部小学校
R7.12.4

～仲間と関わりながら、学び方を身に付ける子どもを育てる～

校内研授業参観(保護者・地域と共に)を終えて

2学期の授業参観、大変お疲れさまでした。7月の計画指導訪問でご指導いただいたことを日々の授業に活かして、積み重ねてこられたことと思います。4か月の中での気づきや挑戦をもとに研究紀要をお書きいただきたいと考えております。その紀要に記していただいたことは、同僚の先生にとっても新たな気づきや考える種になるかもしれません。どうぞ協力よろしく願いいたします。(形式や〆切については終業式までにお知らせいたします。どうぞよろしく願いいたします。)

早稲田大学名誉教授 小林 宏己先生のご講演より

主題「今、子どもたちにつけたい力」～自立(自律)する学びから学力向上へ～

○プロセスの中で宿っていく力

初めから『大事だと教わる』のではなく、子どもたち自身が『大事だと気づき』、『大事にしていく』ことが大切。

○問題解決した後、また新たな問題が生まれる

「でも」「だったら」「これは…」子どもの中から生まれる学習意欲をみとることに注力したい。

○自由進度学習(ゴールと学習の流れは、しっかりと教師と子どもたちとで共有を図る)と一斉授業の両輪で子どもたちの学びを支えていく。

○一人で学ぶ 誰かと学ぶ 子どもたちが選択できる安心感

○大人(教師)も共に学ぶ人であれ

共学者であることの強み

○グリット力(grit)

g…guts 困難なことに立ち向かう度胸

r…resilience 苦境にもめげずに立ち直る復元力

i…initiative 自ら目標を見つけて取り組む自発性

t…tenacity 最後までやり遂げる執念・粘り強さ

○生き抜くための3つの力 ◎粘り強さ ◎メタ認知 ◎自己調整力

「親御さんも粘り強さは持ち合わせていますか? 親としてアンガーマネジメントできていますか?」の問いかけは、とても響きました。子どもたちに必要な力は親御さん含め私たち大人も持ち合わせたい力だなと感じました。教師の出・みとりや言葉かけ(発問・補助発問など)との関係性も深いものがあると思いました。

保護者・地域の皆様からの感想

- ・チャレンジし続けることモチベーションをあげられる環境づくりの大切さを再確認できました
- ・GRIT 理論 Guts 挑戦 Resilience 回復力 Initiative 自発性 Tenacity やり抜く力
子どもも大人もこのGRIT 力が大切だとわかりました
GRIT 力・メタ認知・自己調整力を目指している姿、それが社会人まで繋がる
- ・子どもに自分で決めたり選択したりすることの必要性を学ぶことができました

- ・問題解決は生活の中のいろいろな場面にあること、子どもと共有していきたいです
- ・自分で解決していく過程を見守り、励ましながら大人になってからの生き方につなげていきたいです
- ・学力は問題解決、そして生きる上でだれもが直面していくこと 納得しました
- ・できたことだけを褒めるのではなく、がんばったこと（がんばろうとしたこと）を褒めることが大事だと再認識できました
- ・子どもに対してあたたかく見守ることと子どもとの対話も大切にしていきたいと思いました
- ・私たち親も教える前に子どもと一緒に学ぶ人でありたいと思いました
- ・日々の学習が生活や社会につながる考え方を再発見できました

『単元をつなぐ授業研』を通して

4年2組算数「分数をくわしく調べよう」の単元を1教時ずつ先生方でつないで、授業を行いました。町全体の学力向上・算数の授業力向上をねらいとして行った授業でしたが、次年度の本校の研究にもつなげて活かしていきたいと考えています。一つの単元・一つのクラスを通して、教材観や先生方の想い・考えを共有できたことは、慣れないことへの取り組みに対する大変さよりも、自分の中に確かに感じる価値深さとして残りました。今回の取り組みをベースに、本校の学力・授業力・学級経営力をチームで向上させていくことができるように、次年度も一緒に進んでいきたいです！（どうかよろしく願いいたします！！）

☆4年2組について☆

- ◇ 学級全体の学習に向かう姿勢の向上・理解に時間がかかる児童の学習に対する姿勢の変化
- ◇ 単元テストの向上※知識・技能平均 82.94/100 点 思考・判断・表現 47.36/50 点
- ◇ 他単元や他教科における学び方や表現の仕方の変化
- ◆ 一部の児童の伸びが課題 → 定着に係る学習時間の確保にも課題があったのでは
→ その時間に定着しても、単元テストのときには忘れてしまう子（知能指数が低い子）に対する手立てはどのようなものがあるか

☆「単元をつなぐ授業研」をしてみても☆

- ◇ 担任として、他の先生方の問いかけ、時間配分、教材などを学ぶことができた。
- ◇ 子どもの実態があまり分からない中で、重点的に教材に目を向けることで、要支援の児童の変容につながった。
- ◇ 4年生の担任団で話す良さ、教材研究 **☆教材に目を向ける⇒子どもたちの変容への近道**
→ 1組先行で進めて→2・3組同じ進度で単元指導をした。
職員室などでどうしても児童の話が多くなるが、今回「教材」に目を向けて話すよい機会になった。
2組のみならず、3組のワークテストの点数も向上している。
- ◇ 話し合いの形式、座席の工夫（コの字型）など、自分の学級でも生かしてみたい。
- ◇ 各学年の算数の授業を通して、算数の系統性について学べた。
- ◇ 先生によって、子どものつぶやきの取り上げ方、そこからの課題への持っていき方など良い個性がある。このような機会を生かし、先生方それぞれの取り上げを自分の授業にいかしていく。
- ◆ 該当学級の授業のために自分のクラスの時間を空けなければいけない。
- ◆ 事前研で話をしたり、前時までの間に授業を見に行ったりはしているものの、本時までの学習の流れ・児童の理解度がなかなかかわからず、難しさがある。 → 「学びの足跡」を残すなどの手立てが必要だった

☆次年度に向けての思い☆

- 今回と同様の「単元をつなぐ授業研」を年度の早い時期に行いたい。
- 全体研・ブロック研・単元をつなぐ授業研を織り交ぜて、校内研究を進めていきたい。

